

十勝毎日新聞

2014年(平成26年)7月10日 木曜日

発行所:十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121



鈴木教授室が飼育しているラブラドルレトリバー。9カ月の雄、3カ月の雌、1歳11カ月の雌(左から)

帯畜大が飼育ボランティア募集

幼犬3匹大切に育てて

優秀な盲導犬の人工繁殖を研究している帯広畜産大学原虫病研究センターの鈴木宏志教授室は、研究用の犬3匹を家庭で育てる「飼育ボランティア」を募集している。動物の能力や性格は遺伝子だけではなく、育った環境が影響すると考えられ、人間と生活する喜びやルールを身に付けさせる狙い。研究に役立っており、これまでに15匹がボランティアの家庭で生活した実績がある他、現在も11匹が飼育されている。

盲導犬の繁殖拡大に

同教授室では、国内の盲導犬不足を解消するため、受精卵の移植や凍結精子を用いた人工授精技術で、優秀な盲導犬の繁殖拡大を目指す。盲導犬はあらかじめ避妊去勢手術を施さ

アの条件は犬を乗せられる自家用車を持ち、室内飼育ができる人。長時間留守にしないことも必要となる。

飼育委託期間中、雄は2カ月に1回、雌は発情期を迎えた時に同教授室で、研究のため1〜2週間ほど預かる。その後の委託期間を終えると、ボランティアに譲り渡す。

同教授室の阿部靖之さんは「研究用の犬なので『病気になつたら…』と心配する人もいるかもしれないが、家族の一員として愛情を込めて育ててもらえれば」と話している。申し込み、問い合わせは

同教授室 (0155)・49-5640、Eメールアドレスは mharakawa@obhir.o.ac.jp) へ。(高津祐也)